



アリジゴクって何のことなの

アリジゴクは、アリを砂の中に引きずりこむ

神社や寺の縁の下など、さらさらかわいた土や砂がある場所を観察すると、底が小さいすりばちのように、くぼんでいる所が見つかります。これが、アリジゴクの巣です。そばを通りかかった小さいアリなどが、このすりばちの中にすべて落ちることがあります。すると、穴の底にかくれていたアリジゴクが、すばやくととびかかり、穴の中に引きずりこんで、獲物の体液を吸うというわけです。

アリジゴクはウスバカゲロウの幼虫

アリジゴクは、ウスバカゲロウの幼虫なのです。夏の夜、大きさはカの3倍ぐらいあるトンボのようなものが、明かりの下に飛んできてることがあります。これが、たいてい、成長したウスバカゲロウです。成虫のじゅ命は1か月ぐらいで、夜活動します。幼虫時代(アリジゴク)は2年ぐらいあり、6～7月ごろ、砂を糸でつないで丸いまゆを作り、中でさなぎになります。さなぎは、20～30日で羽化します。

(監修・中山 周平)

